

令和6年用ハウストマト病害虫防除基準（ミニトマトは除く）

発行：J A さがえ西村山
さがえ西村山野菜振興協議会

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法 〔収穫前使用日数/使用回数〕	注 意 事 項	
定植前	萎ちょう病 半身萎ちょう病 青枯病	8F	本畑の消毒を行う。 バスアミド微粒剤 [㊟] 10a 当たり30kg〔は種又は定植21日前まで/1回〕を均一に散布して土壌と混和する。	1. 萎ちょう病の発生するところでは抵抗性品種を栽培する。 2. 青枯病対策として抵抗性台木を利用する。	
	ネコブセンチュウ	1B	ネマトリンエース粒剤 (20kg/10a)〔定植前/1回〕を全面土壌混和する。		
育苗期	苗立枯病	M4	オーソサイド水和剤80 800倍 (12.5g/10ℓ)〔は種後から2～3葉期まで/5回以内〕を1㎡当たり2ℓジョウロ又は噴霧器でかん注する。	1. 多湿になると発生が多くなるので注意する。	
定植時	アブラムシ類	4A 4A	ベストガード粒剤〔定植時/1回〕 ダントツ粒剤〔定植時/1回〕のいずれかを株当たり2gを植穴処理土壌混和する。	1. 茎葉、根に薬剤が直接触れないように注意する。	
	ハモグリバエ類	4A 4A	アクタラ粒剤 5 株当たり1～2g〔定植時/1回〕植穴処理 スタークル粒剤 株当たり1～2g〔定植時/1回〕植穴土壌混和のいずれかを行う。		
生	葉かび病 (すすかび病) (うどんこ病)	BM2,M1 M5 1 7 3 3,UN,M3 11 M7 27,11 M5,21	1. 茎葉散布法 クリーンカップ 1,000倍 (10g/10ℓ)〔前日まで/ー〕 ダコニール1000 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 トップジンM水和剤 1,500倍 (6.6g/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕 アフエットフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 トリフミン水和剤 3,000倍 (3.3g/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕 テーク水和剤 800倍 (12.5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 アミスター20フロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 ベルコートフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 ホライズンドライフロアブル 2,500倍 (4g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 ドーシャスフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 2. くん煙法 下記参照	のいずれかを10a当たり150～300ℓを葉の表裏に十分かかるように散布する。	1. ハウス内の換気をはかり、過湿にならないように注意する。 2. 葉かび病の発生が多いところでは抵抗性品種を栽培する。 3. EBI剤 (トリフミン水和剤、トリフミンジェット、テーク水和剤は、耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。 4. アミスター20フロアブル・ホライズンドライフロアブルは同一成分とみなし、耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。アミスター20フロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると葉害の恐れがあるので展着剤は加用しない。 5. すずかび病の発生が多いほ場では、ダコニール1000、アフエットフロアブル、トリフミン水和剤を使用する。 6. うどんこ病の発生が多いほ場ではダコニール1000、アフエットフロアブル、テーク水和剤を使用する。 7. クリーンカップ、アフエットフロアブル、アミスター20フロアブル、ベルコートフロアブルは灰色かび病にも登録がある。
		BM2 7 9 10,1 12 2	1. 茎葉散布法 ボトキラー水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔発病前～発病初期/ー〕 カンタスドライフロアブル 1,000倍 (10g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 フルピカフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 ゲッター水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕 セイビアフロアブル20 1,500倍 (6.6ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 ロブラール500アクア 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 2. くん煙法 下記参照	のいずれかを発病前から10a当たり150～300ℓ、葉裏に十分かかるように散布する。	1. 果実の花落ちが悪いときに侵入しやすいので注意する。 2. ゲッター水和剤、カンタスドライフロアブルは菌核病、葉かび病にも効果がある。但し、カンタスドライフロアブルは、浸透性を高める効果のある展着剤や葉面散布剤を加用すると葉害が生じるおそれがあるので注意する。 3. ボトキラー水和剤を使用する場合は以下の点に注意する。 ①この剤は微生物農薬であり、有効成分は生菌である。そのため散布液調製後は速やかに散布し、また開封後は出来るだけ早く使い切る。 ②予防的効果が主体の剤なので発病前から7～10日間隔で散布する。 ③低温条件 (10℃以下) では効果が出にくいので注意する。 ④夏期高温時の使用は避ける。 ⑤他剤との混用は効果が劣る場合があるので避ける。なお、ボトキラー水和剤は、キャブタン剤、マンゼブ剤、TPN剤 (具体的な農薬名については最下表を参照) を有効成分とする薬剤との散布間隔を7日以上あける。
育	黄化えそ病 (トマト黄化えそウイルス)		1. アザミウマ類の防除を徹底する。 2. 発病株は、早期に抜き取り適切に処分する。	1. 発病株にふれた手で健全株にふれない。	
	疫病	49,UN,M3	ゾーベックエニベル顆粒水和剤 750倍 (13.3g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 10a 当たり100～300ℓ 散布する。		
期	ミカンキイロアザミウマ (アザミウマ類)	3A 15 5 29 6 30	アーデント水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 カスケード乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 (2g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 ウララDF 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 アニキ乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 グレーシア乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕	のいずれかを10a当たり150～300ℓ散布する。	1. スピノエース顆粒水和剤、カスケード乳剤、モスピラン顆粒水溶剤 [㊟] は蚕毒が強いので注意する。 2. 合成ピレスロイド剤 (アーデント水和剤、アディオン乳剤) は、蚕毒のほか魚類に対する毒性も強いので注意する。また、抵抗性害虫出現回避のため同一ほ場における総使用回数は2回以内とする。 3. カスケード乳剤はサナギ・成虫には効果がないので幼虫期に散布する。 4. ウララDFはアブラムシ類、コナジラミ類にも登録がある。 5. スピノエース顆粒水和剤、カスケード乳剤は施設栽培のみの使用とする。 6. アブラムシの発生初期から防除を徹底する。 7. 被害株は抜き取る。 8. アニキ乳剤はハモグリバエ類、コナジラミ類、オオタバコガにも登録がある。
	アブラムシ類	4A 3A 9B	1. 茎葉散布法 モスピラン顆粒水溶剤 [㊟] 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 アディオン乳剤 3,000倍 (3.3ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 チェス顆粒水和剤 5,000倍 (2g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 2. くん煙法 下記参照	のいずれかを10a当たり100～300ℓ散布する。	耕種的防除法 ①ハウスのサイドを寒冷シャで覆う。 ②ハウスの周囲の除草を徹底する。
期	ハモグリバエ類	4A 5 UN	ダントツ水溶剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 (2g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 プレオフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕	のいずれかを10a当たり100～300ℓ散布する。	1. ハモグリバエ類の発生が多いほ場では、アフーム乳剤2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕を使用してもよい。 2. プレオフロアブルは、オオタバコガにも登録がある。
	コナジラミ類	4A 4A 9B 21A,16 6	1. 茎葉散布法 スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 (3.3g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 モスピラン顆粒水溶剤 [㊟] 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 チェス顆粒水和剤 5,000倍 (2g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 アブロードエースフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 コロマイト乳剤 1,500倍 (6.6ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 2. くん煙法 下記参照	のいずれかを10a当たり100～300ℓ散布する。	1. 生物農薬による防除法としてエンストリップ (天敵昆虫オンシツツヤコバチ剤) も利用できる。ただし受粉にマルハナバチを利用するなど殺虫剤の使用が制限される場合に限りオンシツコナジラミ発生初期に30株当たり1カードを均一に設置する。使用できる殺虫剤が限られるので注意する。
期	オオタバコガ	13 5 6 28 28	コテツフロアブル [㊟] 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 (2g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 アフーム乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕 フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 プレバソフフロアブル5 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕	のいずれかを10a当たり100～300ℓ散布する。	1. コテツフロアブル [㊟] はミカンキイロアザミウマにも登録がある。但し、蚕毒が強いので注意する。 2. スピノエース顆粒水和剤に替えて、ダブルシューターSE1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を使用してもよい。ただし同一成分とみなし、抵抗性害虫出現回避のため連用は避け、総使用回数は2回以内とする。

くん煙法

薬 剤 名	RAC	燃焼法	対 象 病 害 虫	使用量の目安	使用時期	使用回数
ロブラールくん煙剤 [㊟]	2	自然式	灰色かび病・菌核病	300～400㎡当たり 100g	前日まで	3回以内
トリフミンジェット [㊟]	3	自然式	葉かび病	400㎡当たり 50g	前日まで	5回以内
モスピランジェット [㊟]	4A	自然式	コナジラミ類・ ミカンキイロアザミウマ	400㎡当たり 50g	前日まで	3回以内

※出荷物の農薬による汚染対策として、希釈倍率の低いものなどは使用時期が「前日まで」の登録でも、早めの時期に散布するなどして対応する。
それでも出荷時に汚れていた場合は表面をふいて出荷する。

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成 分 名	RAC	農 薬 名	使用回数	同一成分 総使用回数	備 考	成 分 名	RAC	農 薬 名	使用回数	同一成分 総使用回数	備 考
アセタミプリド	4A	モスピラン顆粒水溶剤 [㊟]	3回以内	4回以内	定植時まで粒剤1回以内 散布、くん煙及び定植後の 株元散布合計3回以内	イプロジオン	2	ロブラール500アクア	3回以内	4回以内	種子粉衣1回以内 は種後3回以内
		モスピランジェット [㊟]	3回以内					ロブラールくん煙剤 [㊟]	3回以内		
TPN	M5	ダコニール1000	4回以内	6回以内	土壌灌注は2回以内 散布及びくん煙及びエアゾ ル剤の噴射は合計4回以内	トリフルミゾール	3	トリフミン水和剤	5回以内	5回以内	
	M5,21	ドーシャスフロアブル	4回以内					トリフミンジェット	5回以内		
クロチアニジン	4A	ダントツ粒剤	1回	4回以内	育苗期及び定植時合計1回 以内、散布及び定植後の株 元散布合計3回以内	ジノテフラン	4A	スタークル粒剤	1回	5回以内	育苗期株元散布1回以内、培土混和及びかん 注は合計1回以内、定植時土壌混和1回以内、 散布及び定植後の株元散布は合計2回以内
		ダントツ水溶剤	3回以内					スタークル顆粒水溶剤	2回以内		
チオファネートメチル	1	トップジンM水和剤	5回以内	6回以内	種子への処理は1回 は種後5回以内						
	10,1	ゲッター水和剤	5回以内								